

姉妹都市・長野県大町市での小・中学校における交流に関する提言

平成29年度大町市交流推進検討委員会

1 小学校における交流

◎ 小学校3学年（または4学年）の社会科では、地域学習を行っている。特に居住する市についての学習を深める3学年において、立川市の地理や産業等、学んだことをリーフレットにまとめる学習を取り入れ、完成したリーフレットを交流先小学校に送付する。

- 相手に分かりやすく伝えることを念頭に置いて活動することにより、児童が他者意識をもつとともに明確なねらいの下、学習に取り組んでいくことが期待できる。
- 作成したリーフレットを送付するとなると、送料等の予算を確保する必要がある。他の交流事業等で、大町市に向かうケースがある場合に持参する等の工夫をすることも検討する。
- 立川市に関する学習においては、小学校社会科副読本が多く活用されている。副読本には、姉妹都市・大町市についても記述されているので、小学校3学年では、リーフレットを作成して送付することによる交流を進めている旨加筆すると、児童の意欲を更に喚起できる。

◎ 大町市立小学校が修学旅行等で来訪したときの受入に関しては、大町市立小学校の行動予定と交流希望の有無や内容にもよるが、交流校を設定した上での直接的な交流を図る。

- PTA行事と日程を合わせることができれば、PTAとしての支援、交流も可能である。
- 立川市の児童が移動教室等で大町市を訪れるのは、移動教室を実施している5・6学年の学習内容や、各学校の過去の移動教室の目的等と照らし合わせると現実的でない。大町市の小学生に来訪していただく方が、より現実的である。
 - ・ 連合音楽会の練習ビデオ等を送り合い、同じ合唱曲を歌えるようにしておくと、実際に対面したときに一緒に合唱することができ、児童同士の接点を増やすことができる。

◎ 教職員間においては、互いの学校の研究紀要や学校だより等を送付し合う。PTAも同様で、PTA広報誌を送付し合う。これらはすぐにでも実施可能である。

※その他

- ・ 姉妹校を設定する。枠組みがあると交流しやすくなる。立川・大町両市の小学校数に差があるが、「立川市の小学校」と「大町市の小学校の学年又は学級」が交流する、とすることも対応策の一つとして考えられる。
- ・ ICT機器の整備が進んでいるので、インターネットを使った交流も進めていく。

2 中学校における交流

◎ 立川市・大町市姉妹都市中学生サミットでの交流に発展させていくなど、小・中学校での交流を単発なものに止めず、それぞれを関連させながら、交流の在り方を具体化させていく。

- 立川市内の中学校間及び大町市民との交流（生徒会サミット等）により、姉妹都市のつながりを充実させていく。
- 生徒会の集まり（勉強会）等を実施し、大町では何ができるか事前の関わりを通して検討しておく。学校ごとの交流とともに、「立川市の中学校」と「大町市の中学校」の交流という考え方も必要であり、生徒の中心となる生徒会の活性化が鍵を握る。
- 立川（東京）に住んでいるから気付く、大町の良さを伝えられるとよい。
 - ・ 交流の「柱」を両市で見直し、「柱」がぶれないよう留意して、ベースとなるところをしっかりと押さえた交流とする。
 - ・ 大町市ではどのような体験的な学習ができるか、大町市を訪れたことのない教員にも分かるよう、大町市の教育委員会からの情報発信など協力を仰ぐ。
 - ・ 夏季に移動教室を実施する場合、小学校で実施する八ヶ岳自然教室での学習内容を踏まえ、発達段階を考慮した体験的な学習を計画する必要がある。民泊なども検討すると有効である。

◎ 小学校での（ICTを使った）交流を足がかりにして、夏季及び冬季における大町市における移動教室の実施を進め、原則として3箇年（平成33年）を目途に大町市民との交流をしていく。

平成29年度大町市交流推進検討委員会

委員長	立川第一中学校校長	唐亀 康司
委員長	上砂川小学校校長	神田 恭司
委員	立川市立小学校PTA連合会 第十小学校PTA会長	友野 美環
委員	立川市立中学校PTA連合会 立川第四中学校PTA会長	平田 直子
委員	第一小学校教諭	大須賀 晶
委員	西砂小学校教諭	松本 武
委員	立川第一中学校教諭	春日 裕衣
委員	立川第六中学校教諭	福丸 諒
委員	立川第九中学校教諭	小林 奈央

立川市立小中学校における大町市との交流の推進について

推進の方針

【学習指導要領総則編】

- 1 教育課程編成の原則（第1章第1の1）
- 1 各学校においては、教育基本法及び学校教育法その他の法令並びにこの章以下に示すところに従い、（中略）児童（生徒）の心身の発達の段階や特性及び学校や地域の実態を十分考慮して、適切な教育課程を編成するものとし、これらに掲げる目標を達成するよう教育を行うものとする。

【立川市の学校教育】

＜立川市教育委員会の方針＞大町市との交流の充実を図っていく。
～まちづくりは人づくり、人づくりは未来づくり、未来づくりは学校から～

- 8 小中連携の推進（1）② 「立川市民科」の推進
「立川市に愛着をもち、主体的にまちに関わり、まちに貢献しようとする市民」の育成を目指す。
⇒ 姉妹都市・大町市に関する学習の推進

【大町市との交流を通して、立川市のよさを見つめ直す】

- 大町市の児童・生徒との交流
- 大町市での体験
- 立川市民科による系統的な学習

平成29年度の取組

大町市交流推進検討委員会

- 【開催日時】 第1回 平成29年5月22日（月）
第2回 平成29年8月29日（火）
第3回 平成29年9月14日（木）
- 【委員】 小学校 担当校長、小学校代表教員2名、
保護者代表（小学校PTA連合会会長）
中学校 担当校長、中学校代表教員3名、
保護者代表（中学校PTA連合会会長）

～交流に関する提言～

- 1 小学校における提言
○立川市の学習に関するリーフレット作成・送付 等
- 2 中学校における提言
○大町市との交流の在り方を具体化していく。

第3回立川市・大町市姉妹都市中学生サミット

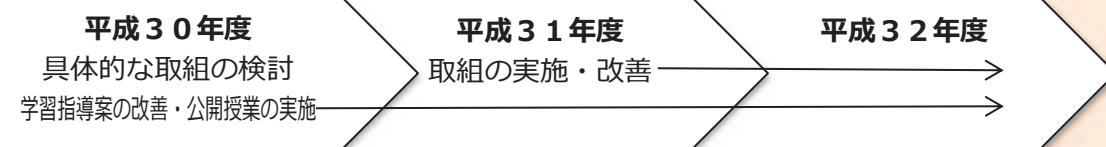
- 【実施日時】 平成29年7月22日（土）、23日（日）
【実施場所】 長野県大町市各方面
【立川市代表生徒数】 20名
【実施内容】 大町市内巡り、祭り見学、竹工作、レクリエーション、意見交換会 等

平成30年度の取組

大町市交流推進検討委員会

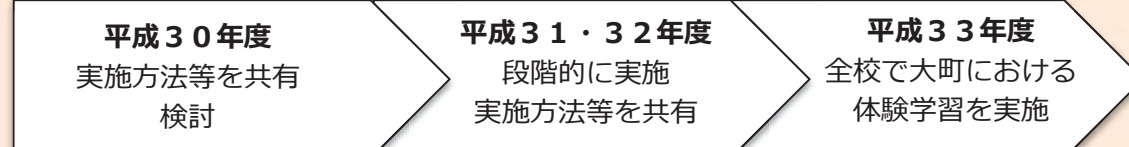
小学校作業部会

- 【作業目的】
- 1 立川市のリーフレット作成等、具体的な交流の在り方を検討する。
 - 2 立川市民科カリキュラムにおける「大町市の学習」について、これまでの学習指導案を改善し、公開授業を通して周知する。
- 【作業内容】
- 1 リーフレット作成等、交流に向けた協議
 - 2 学習指導案の検討、改善及び公開授業の実施
- 【今後の流れ】



中学校作業部会

- 【平成30年度現在における実施校】（スキー学習、生徒交流、他）
立川一中（平成28年度より）、立川五中（平成29年度より）、立川八中（平成30年度より）
- 【作業目的】 小学校で学習した立川市民科カリキュラム「大町市の学習」について、より理解を深められるような体験学習の検討を行い、平成33年に全校で実施を目指す。
- 【作業内容】 現時点で体験学習を実施している学校の学習内容について、その成果や課題を共有し、夏季の学習例及び冬季の学習の在り方を検討する。
- 【今後の流れ】



第4回立川市・大町市姉妹都市中学生サミット

- 【実施日時】 平成30年
7月14日（土）15日（日）
- 【実施場所】 立川市役所 等
- 【実施内容】 東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて立川市のよさを英語でPRする。

立川市教育委員会は大町市教育委員会と情報共有を行い、それぞれの委員会に必要な情報を提供していく。

【平成30年度の委員会開催日】

- 第1回 平成30年6月25日（月） 第2回 平成30年8月30日（現地視察） 第3回 平成30年9月13日（木） 第4回 平成31年1月18日（金）